

日本・ミャンマー初の合作映画「にっぽんむすめ」

1935年(昭和10年)に当時のビルマから映画監督、主演俳優が来日して劇映画を製作するという画期的な出来事がありました。その頃、日本は第2次世界大戦が始まる数年前ですが、日本の映画産業は技術的にも高いレベルにありました。無声映画からトーキー映画へと変わる時代の中で、アジアでもビルマはいち早くオールトーキー映画を作るため日本の映画技術を取り入れようと、日本での撮影と編集、日本の女優を出演させ大作を製作します。そして「にっぽんむすめ」は完成しました。ビルマ



では「にっぽんむすめ」は大ヒットとなり、国民的な支持を得る作品となりました。しかし第2次世界大戦の影が押し寄せてきます。それは日本でも同じです。戦火によって多くの映画フィルムは焼失します。「にっぽんむすめ」も行方不明となりました。戦後、日本では幸い戦火を免れた映画フィルムは多くあったものの、戦勝国であるアメリカによって戦前のすべての日本映画は接收されました。半世紀以上の時が流れ、映画フィルムは日本に返還されました。その時「にっぽんむすめ」が発見されたのでした。

[あらすじ]

日本にやって来た冒険家兄弟。兄は飛行家、弟は助手。世界初となる東京・ラングーン(当時のビルマの首都・現在はヤンゴン)間、無事単独飛行を成し遂げようとビルマ国民の絶大なる期待を受けて来日したのである。しかし、目的を達成するまでには様々な困難が待ち受ける。飛行訓練中の事故、日本人女性との恋愛、事故で失った愛機を取り戻すための賞金稼ぎカーレース出場と波乱が次なる波乱を巻き起こす。その成功の陰には日本とビルマの熱い架け橋があった....



2016年7月18日(月)14:30 開場 15:00 開演 玉川聖学院 谷口ホール(約800名収容)

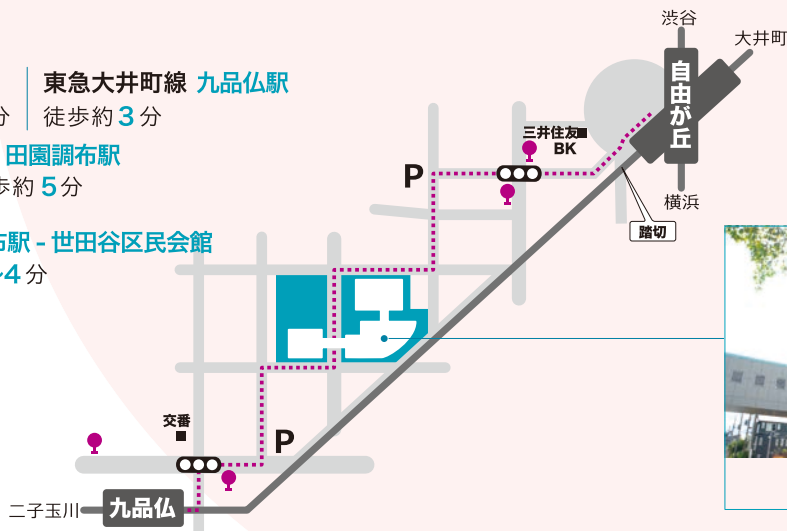
主催 ミャンマー映画祭実行委員会 後援 玉川聖学院

* 映画上映後ゲスト(根本敬上智大学教授)によるトークセッションあり

入場無料

アクセス

- 電車** 東急東横線 自由が丘駅 | 東急大井町線 九品仏駅
正面出口より 徒歩約6分 | 徒歩約3分
- バス** 東急バス 渋11 渋谷駅 - 田園調布駅
自由が丘駅入口より 徒歩約5分
- 東急バス 園02 田園調布駅 - 世田谷区民会館
九品仏駅前より 徒歩3~4分



玉川聖学院

[お問い合わせ]

ミャンマー映画祭実行委員会 三井 TEL:090-9670-0912 E-mail:mitsuiyu@yahoo.co.jp WEB:http://cinema.888.j.net